

2019年10月3日  
NHK広報局

## 10月会長定例記者会見

Q. ABU・アジア太平洋放送連合の総会について

A. (上田会長) 来月東京で開催されるABU・アジア太平洋放送連合の総会についてご説明します。

ABUは、アジア太平洋地域の放送機関の連合体で、1964年にNHKなどの主導により発足しました。現在73の国と地域から279の放送機関などが加盟し、「ABUロボコン」の開催や国際共同制作のほか、ニュース交換や技術情報の交換などを行っています。総会は今度で56回目、東京で開催されるのは9年ぶりで、NHKがホストとなり、11月17日から22日までの6日間、開かれます。

今回のテーマは、“Building Trust: Enriching Audience Experience”

「多様な視聴体験への挑戦～信頼されるメディアを目指して」です。メディア環境が激変する中、様々なプラットフォームを通して多彩で豊かなコンテンツや視聴体験を提供し、視聴者との信頼を強める方策を考える機会にしたいと思っています。世界各国の放送局のトップによるパネルフォーラムやディスカッションでは、ネット時代に求められるメディアの役割などについて議論が行われます。

また、会場内に「NHKショーケース」というコーナーを設け、来年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて最高水準の放送・サービスを提供するNHKの取り組みや技術などを紹介します。

今回の東京総会を通じて、アジア太平洋地域の放送の一層の発展に貢献するとともに、日本の放送文化、そして「国際公共メディア」としてのNHKのプレゼンスをさらに高めたいと考えています。

(詳細は報道資料参照)

Q. 11月のBS4K、BS8Kについて

A. (会長) 11月のBS8Kは「紀行」に関する番組を集中的に編成します。今回ご紹介するのは「空からクルージング」です。ヨーロッパ大陸の西の端で多彩な表情を見せるポルトガルの海岸線や、ノルウェーの二大都市、オスロとベルゲンを結ぶ鉄道、世界で最も美しい水の風景と言われる中国・四川省の九寨溝などの世界的な景観を、

超高精細カメラによる空からの撮影によって、自由に楽しめるような空の旅を皆さまに体験していただきます。是非お楽しみください。NHK杯フィギュアの季節が近づいています。BS8Kでは11月22日に開幕する「2019 NHK杯国際フィギュアスケート競技大会」を生中継します。男子シングルは羽生結弦選手、女子シングルは紀平梨花選手が出場予定で、注目度の高い大会となります。この大会では8Kの更なる普及推進を図るために、8Kパブリックビューイングや各地での受信公開を行う予定です。詳細については決まり次第お知らせします。

またBS4Kでは、開局から1年を迎える特集番組として、11月30日と12月1日の2日間に渡り、アフリカの大自然から4Kによる生中継を合計7時間半放送する予定です。中継の舞台である世界自然遺産「タンザニア・ンゴロンゴロ保全地域」から、サバンナに棲む野生動物のありのままの暮らしぶりを、4Kの高精細映像でお伝えします。特集番組の一つとして「ダーウィンが来た！」をBS4Kと総合テレビで初めて生中継する予定です。お茶の間をアフリカの大草原へと変えるこの番組の詳細については、後日お伝えします。BS4K、BS8K開局1年を控えて、NHKでは引き続き、放送の新しい価値を視聴者の皆さまにお届けしていきます。

(詳細は報道資料参照)

Q. 東京2020関連番組について

A. (会長) 来年3月から始まるオリンピック聖火リレーを前に、11月よりBS1で、「聖火ロード5min.」と題して、都道府県ごとに5分の番組として放送します。各県ゆかりのオリンピックがナビゲーターとなり、歴史を今に伝える街道や、土地の人々の営みを感じる街並みを訪ね、聖火が来ることを楽しみにしている地元の方々の取り組みを紹介します。放送は、スタート地の福島県からはじまり、聖火が実際にたどっていく順番通りに全国47都道府県を紹介し、大会本番への機運を高める一大イベントである聖火リレーを盛り上げていきます。

(詳細は報道資料参照)

Q. 第70回紅白歌合戦について

A. (会長) 今年の紅白歌合戦は、「令和初」の紅白であり、また東京オリンピック・パラリンピック直前の紅白でもあります。こうした記念の年にふさわしい、人々の心に残る紅白となるよう、制作現場が準

備を進めています。

2016年から4年連続で「夢を歌おう」という共通のテーマを掲げてきましたが、第70回目となる今回は、いよいよその締めくくりの年となります。放送時間は午後7時15分にスタートし、前半の終了は午後8時55分。5分間のニュースをはさんで、後半の開始は午後9時で、終了は午後11時45分です。総合テレビ、BS4K、BS8K、ラジオ第1で放送します。

「夢を歌おう」というテーマのもと、視聴者の皆さまの夢を「歌の力」で応援する紅白歌合戦をお届けできれば、と考えています。

(詳細は報道資料参照)

Q. 「クローズアップ現代+」をめぐる報道について

A. (会長) 取材・制作の過程に関わることについてはお答えできませんが、事実と反することについてはこの機会にはっきりさせていただきます。番組を放送する時期やその内容は、取材の積み重ねの結果によるものであり、取材を尽くしたうえで制作・放送することを基本としています。一部報道で指摘されているような自主・自律や番組編集の自由が損なわれた事実はありません。

放送部門に確認したところ、去年8月に「クローズアップ現代+」が予定されており、番組で取り上げる複数のテーマの候補の一つとして、かんぽ問題の続編のリサーチをしていましたが、当時、十分な取材が尽くされていなかったことなどから、継続取材が必要だと判断したと聞いています。これに伴い、去年7月からかんぽ問題に関する情報提供を求めていたショート動画についても、公開を終えることにしたと聞いています。

なお、この時点で経営委員会からの指摘は全くなく、番組に影響することは時系列的にありえません。

(放送総局担当者) 経緯の詳細を説明します。去年4月24日の「クローズアップ現代+『郵便局が保険を“押し売り”!? 郵便局員たちの苦悩』」の放送後、「郵便局の体質は変わっていない」などの情報提供がありました。そうした中、去年8月10日に「クローズアップ現代+」の拡大版として夏季特集を予定していました。この番組は、それまでに放送した3つか4つのテーマのその後を取材し、拡大した

時間の中で複数のテーマを取り上げるスタイルで、その候補の一つとして、かんぽ問題の続編について、番組担当者がリサーチをしていました。

しかし、8月の時点では、十分な取材が尽くされていないことから、10日の番組のテーマには入れず、さらに取材を継続し、放送を目指すことにしました。取材の結果、今年7月に「クローズアップ現代+」で放送しています。

また、続編の放送を目指し、SNSで情報提供を呼びかける、いわゆるオープン・ジャーナリズムの手法を取り入れ、去年7月に番組のホームページにショート動画を掲載し、情報の提供を呼びかけていましたが、「広く意見を募る」という意味での、一定の役割を終えたという判断のもと、去年8月に公開を終えることにしました。

番組の取材対象である郵政3社と放送現場との間では様々なやりとりはありましたが、番組の放送時期と動画の扱いについては、いずれも取材の結果として、自主・自律的に判断したものです。

去年8月の時点において経営委員会の話は全くありませんでした。その後の経営委員会からの厳重注意も、個別の放送番組や番組編集に関するものではありません。したがって、一部報道で指摘されているような自主・自律や番組編集の自由が損なわれた事実はありません。

(会長) 私としては、かんぽ生命の保険の不適切な販売問題を1年以上も前に指摘していた「クローズアップ現代+」の社会的意義は、視聴者の皆さまにも評価していただけるのではないかと考えています。これからも自主・自律を堅持して取材によって事実を積み重ね、事実で語る番組作りに力を入れていきたいと考えています。

また、経営委員会からは、番組の編集権について番組担当者が説明した内容が不十分だったため、郵政3社に対して適切に対応するよう厳しく注意を受けました。厳重注意を重く受け止め、郵政3社の社長宛てに、会長名で文書を差し出した次第です。文書は「番組担当者の発言は、放送法の共通理解と異なり、説明が不十分である」旨で、あくまで番組の編集権について説明したものにすぎず、個別の放送番組や番組編集とは全く関係がありません。文書は放送総局長が出向いて渡しましたが、これも経営委員会からの厳重注意を重く受け止め、執行部の代表として対応をお願いしました。その目的は、あくま

で番組の編集権について説明した文書を届けることであり、個別の放送番組や番組編集には一切触れていません。

(以上)